

< 事業所自己評価\_様式例 >

【事業所概要】

法人名	社会福祉法人あさひ共生福祉会	事業所名	あさひナーシングセンター
所在地	(〒 955 - 0082 ) 新潟県三条市西裏館三丁目6番54号		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

- ・住む慣れた地域で最後までその人らしい生活を送ることができるように支援してまいります。
- ・医療ニーズのある方はもちろん、様々な状態・病状の方たちの在宅療養の支援とともに、介護者・ご家族を含めた総合的な支援を行います。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価実施日	西暦 2022 年 12 月 28 日	従業者等自己評価実施人数	( 12 ) 人 ※管理者を含む
------------	---------------------	--------------	------------------

【運営推進会議における評価実施概要】

実施日	西暦 2023 年 2 月 16 日	従業者等自己評価実施人数	( 1 ) 人 ※自事業所職員含む
出席者 (内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 ( 1 人) <input type="checkbox"/> 市町村職員 ( 1 人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 ( 人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 ( 1 人) <input type="checkbox"/> 利用者 ( 人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族 ( 3 人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者 ( 人) <input type="checkbox"/> その他 ( 人)		

■ 「今回の改善計画 (案)」 および 「運営推進会議における評価」

項目	評価結果	改善計画
I. 事業運営の評価 (評価項目 1~10)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の配置が変わり、職員不足のため研修の参加が不十分で知識の向上につなげられていない。</li> <li>・送迎と訪問とで連携の取り方が (申し送り) 難しくなっている。</li> <li>・職種間でモニタリングの共有ができていなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の研修育成を行えるように時間の調整を行っていく。</li> <li>・確実に申し送りができるように記録・申し送り事項を作成していく。</li> <li>・職種間で共有できるように書面に残す。</li> </ul>
II. サービス提供等の評価		
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11~27)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族からの意向を確認し、サービスを提供するように努めた。</li> <li>・事故防止リスクを踏まえた計画が不十分であった。</li> <li>・ADL 変化時の適切なプランの反映が出来ていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の状態変化を早期発見し柔軟にプランを変更していく。また家族の状態も把握しプランに反映する。</li> <li>・事故防止委員会で事故防止リスクを踏まえた計画を立てていくようにする。</li> </ul>
2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28~31)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関との情報共有を図り状態のあったサービスができるよう努めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関・福祉用具事業者と情報共有できようカンファレンスを開催し相談できる体制を整えておく。</li> </ul>
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32~41)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療処置等の高い人のマニュアル作成し準備をしておく。</li> <li>・コロナ禍のため地域の方々と接点を持つことができなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マニュアル等の作成に取り組んでいく。</li> <li>・地域等の関りを持つために広報を作成し事業所を知って頂く機会を持つ</li> </ul>
III. 結果評価 (評価項目 42~44)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者家族より「利用して良かった」と安心されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な状態の受け入れを行い職員の経験値を上げていけるよう努力をする。</li> </ul>

※「改善計画 (案)」には、事業所としての案を記載します。「運営推進会議における意見等」は、運営推進会議の場で得られた主なご意見等をメモします

■ 評価表 [事業所自己評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
<b>I 事業運営の評価 [適切な事業運営]</b>							
<b>(1) 理念等の明確化</b>							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている		○			そのまま続けてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」</li> <li>✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」</li> <li>✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</li> </ul>
	[具体的な状況・取組内容] ・法人理念、事業所理念を念頭に利用者様・利用者様ご家族の意向を重視し自宅での生活サービス事業者である自覚をもち、支援の実施が行われている。 ・生活機能の維持・回復のため体操・脳の活性化をはかり自立できるように促している。						
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		○			十分に理解して行えるようにしてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します</li> <li>✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</li> </ul>
	[具体的な状況・取組内容] ・看護小規模多機能というシステムを理解することに努め、利用者様の状況に合った介護計画を提供し訪問・泊り・通いを組み合わせて提供している。						
<b>(2) 人材の育成</b>							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している		○			そのまま継続してほしい	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します</li> <li>✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」</li> <li>✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」</li> </ul>
	[具体的な状況・取組内容] ・毎月研修の実施 ・年2回の自己評価について主任と面談を行い今後の課題について話し合っている。						
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外の機会を確保している		○			研修の機会を作れるように調整してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します</li> </ul>
	[具体的な状況・取組内容] ・キャリアパスや必要に応じた研修参加に参加出来ている。						
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている		○			職種内外で連携を図れるよう調整してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します</li> <li>✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます</li> </ul>
	[具体的な状況・取組内容] ・朝礼時や会議やカンファレンスを行い話し合う場を設けているが、日々の業務に追われると連絡ミスや連携が取れない部分がでてきて職種内での完結が起こり、サービスが均一にならない点に気を付けていかなければと感じる。						

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
<b>(3) 組織体制の構築</b>							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている		○			<ul style="list-style-type: none"> <li>反映させたところ会議でも共有してほしい。</li> <li>充足度が不足しているように見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します</li> </ul>
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>運営推進会議で意見・助言あれば、職員に報告している。また助言等の改善ができるように心がけている。</li> </ul>					
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている		○			そのまま続けてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します</li> <li>例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます</li> </ul>
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>整理整頓を日々担当者が実施している</li> <li>除雪の対応が来ている。</li> <li>セクハラ・パワハラがない</li> <li>職員のやり易い環境配置が来ている。</li> <li>感染症の発生時、速やかに勤務の変更を行い精神的・身体的な負担の軽減が来ている。感染を防ぐために無理に出勤しないように配慮している。</li> <li>利用が増えるにつれ事務的作業が終わらなくなっている。</li> <li>希望休・有給取得が来ている。</li> </ul>					
<b>(4) 情報提供・共有のための基盤整備</b>							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている		○			そのまま続けてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します</li> </ul>
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>利用者や家族介護の状況の変更が伝わるようにホワイトボードを活用して職員の目に入る工夫をしている。</li> <li>ケアカルテを利用して共有している。</li> <li>記録をこまめに残す工夫はしているが共有された情報が誤ったものとして伝わらないように注意したい。</li> </ul>					
<b>(5) 安全管理の徹底</b>							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている		○			職員間の連携が大切だと思います。図れるよう調整してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します</li> <li>対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます</li> </ul>
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>利用者人数が増え慌ただしくなるにつれケア事故が増えて来ている現状がある。その都度カンファレンスをまめに行っていくようにしているが不十分さも感じる。</li> <li>全体会議時に事故報告の評価を行っている。</li> <li>安全運転の為の呼気チェックを行っている。</li> <li>内服は個人のプレートに入れて保管している。</li> </ul>					
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている		○			<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会、消防団等の協力や連絡体制を強化できるよう調整してほしい。</li> <li>施設全体で取組んで下さい。</li> <li>安否確認方法の明確化をして下さい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します</li> <li>例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます</li> </ul>
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>雪道で豪雪時は無理に通いサービスにせず自宅に居てもらい訪問に切り替えた。</li> <li>医療材料などの確保は来っていない</li> <li>災害時のマニュアルの内容が薄い</li> <li>連絡リストの作成等来っていない</li> <li>年2回避難訓練は日中・夜間想定で行っている。</li> </ul>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
<b>II サービス提供等の評価</b>							
<b>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供</b>							
<b>(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成</b>							
① 利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている		○			そのまま続けてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します</li> <li>✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります</li> </ul>
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通い・訪問・送迎時に本人・家族に状況をお聞きしてモニタリングで評価し問題がある時はカンファレンスを行っている。</li> <li>・ ケアマネージャーが一丸となり職員間での情報共有を行い家族への包括支援等のアセスメントを行いプラン作成している。</li> </ul>					
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている		○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護・看護分けることなく一緒に利用者の対応にあたってほしいと思います。</li> <li>・ 職種内外で連携を図れるように調整してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます</li> </ul>
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者のアクティビティ活動の中で出来る事・苦手な事の把握をまとめて職員で共有している。</li> <li>・ 毎月1回介護はモニタリングを行っている。看護は訪問看護指示書の評価を行っているが職種内で完結している。</li> </ul>					
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている		○			そのまま続けてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます</li> </ul>
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ その都度、利用者・利用者家族の意見を聞き対応出来た。</li> </ul>					
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている			○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安心・安全に配慮し、回復向上に向けた計画を作成してほしい。</li> <li>・ 介護と看護が提供できるサービスの内容が違うのか？家族として誰に何を相談したらいいのかわからない。誰にでも相談できる環境ができたらいいと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます</li> </ul>
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本人が出来ることを把握して安全に見守る。自宅で長く暮らせるためにも自分で出来る事は続けてもらうように声かけを行っている。</li> <li>・ 体操・歩行訓練など身体機能を維持する計画立案されているがリハビリまではできていない。</li> </ul>					
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者等の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている			○		適切な計画を作成できるよう調整を図ってほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します</li> <li>✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です</li> </ul>
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事故防止リスクマネジメントで全体会議時に話し合っている。</li> <li>・ 食事時の飲み込み等が悪くなってきている利用者には専門職からの評価をしてもらっています。</li> </ul>					
<b>(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践</b>							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている			○		適切な計画を作成できるよう調整を図ってほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します</li> </ul>
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体調が悪化・改善された場合のサービス介護方法を話し合っているが計画への反映があまりできていない。</li> </ul>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している			○		適切な計画を作成できるよう調整を図ってほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します</li> <li>訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です</li> </ul>
[具体的な状況・取組内容]							
・ 宿泊・通いのサービスを希望される利用者様が多くバランスを取ることが難しかった。訪問をメインでサービスの見直しを行っている。							
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている		○			そのまま続けてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します</li> </ul>
[具体的な状況・取組内容]							
・ 担当看護師は月に1回報告書を提出している。利用者の体調急変時は主治医に電話で報告し指示を仰いでいる。							
<b>(3) 介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供</b>							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている		○			そのまま続けてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します</li> <li>介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です</li> </ul>
[具体的な状況・取組内容]							
・ 状況によって看護師にも介護士の役割を担ってもらうことが多くある。							
・ 医療に重点をおく利用者には看護が対応している。							
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている		○			より連携が図れるよう調整してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します</li> </ul>
[具体的な状況・取組内容]							
・ 朝・夕の申し送り時に情報を共有している。							
・ 身体状況、生活状況等変化するためその都度話し合いを行い検討している。							
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている		○			より連携が図れるよう調整してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します</li> <li>このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます</li> </ul>
[具体的な状況・取組内容]							
・ 状態の変化時は伝達し合っているが今後どう変化していくかをもっと発信できたらよかった。また介護士も知識を深めていく必要がある。							
<b>(4) 利用者等との情報及び意識の共有</b>							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている			○		<ul style="list-style-type: none"> <li>伝わりやすい説明等を心がけてほしい。(事業所の強み等)</li> <li>理解してもらえるように努力してください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「利用者等の理解」について、充足度を評価します</li> </ul>
[具体的な状況・取組内容]							
<ul style="list-style-type: none"> <li>看護小規模多機能サービスを柔軟に使えるか実例を出しながら提案をしている。</li> <li>1度では理解できない場合も多いので何度も説明フォローしている。</li> </ul>							
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている			○		伝わりやすい説明等を心がけてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「利用者等の理解」について、充足度を評価します</li> </ul>
[具体的な状況・取組内容]							
・ ケアマネージャーが作成した計画書を説明しているが説明が足りていないのか理解が薄い時がある。							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○			そのまま続けてほしい。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> ・在宅で家族がケアに入らなければならない時は家族の理解度を評価した上で何が出来て何が出来ていないのかを、十分職員間で話し合い必要ならば指導に当たる。					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している		○			そのまま続けてほしい。	✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> ・家族の思いを確認し声掛け援助を丁寧に言い利用様の状態を見ながらサービスの提供をしている。					
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている		○			そのまま続けてほしい。	✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> ・利用様の状態変化に応じた在宅生活継続のリスク想定を提案し、本人家族の気持ちの変化もくみ取りながら対応している。 ・認知症の利用者には本人の意向に沿わないときもあるが、尊厳や人権を考慮して何度も話し合った。					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している		○			そのまま続けてほしい。	✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> ・終末期のケアについて利用者家族に丁寧に説明を行い（意向シートの説明）確認を行っている。 ・記録もケアカルテに残している。					
<b>2. 多機関・多職種との連携</b>							
<b>(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供</b>							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している		○			そのまま続けてほしい。	✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> ・毎月の利用者の報告書により主治医の先生と情報を共有している。 ・退院前カンファレンスはケアマネ・看護が出来るだけ参加している。					
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている		○			必ず相談・共有を行い適切に対応してほしい。	✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> ・全ての利用者の緊急連絡先を確認し対応できるよう準備している。訪問看護指示書をもっているため医師の指示に従い勘案医療ケアの提供を行い必要時報告・確認を行っている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりでき ていない	全く できていな い		
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている			○		そのまま続けてほしい。	✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> ・フローチャートの作成、利用者様に危険の可能性がある場合は個々に合わせた対応マニュアルを都度作成している。 ・全ての利用者に訪問看護指示書を頂いているので休日や緊急時連絡先を確認してある。					
<b>(2) 多職種との連携体制の構築</b>							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている			○		提案等を活かして取り組みを行ってほしい。	✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> ・推進委員の皆さんからは運営推進会で意見をもらい今後の介護現場での取り組み方や包括的な支援についてどう取り組んでいくかを検討している。 ・在宅医療・介護連携検討部会に管理者参加し情報の共有を行っている。					
<b>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画</b>							
<b>(1) 地域への積極的な情報発信及び提案</b>							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている			○		そのまま続けてほしい。	✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> ・会議録は推進会議で上がった内容も取り入れ意見を交換している。 ・会議録はファイリングに綴じ回覧できるようにしている。					
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている			○		・積極的に活動を行ってみたいかがでしょうか。 ・多忙な中ではあるがコロナが終息したら改善の余地はあり。 ・地域を固定しないで行ってみたいかどうか。 ・病院・ケアマネに看護小規模多機能の魅力を知って頂く、市内だけではなく広く知ってもらえると良い。	✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> ・医療機関・地域包括チラシ等の配布を行っている。					
<b>(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮</b>							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している			○		積極的に活動を行ってみたいかがでしょうか	✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> ・チラシを居宅や包括に配り営業活動を実施しているので少しずつ浸透している。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている			○		強化できる体制について取り組みをしてみたいかがでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</li> <li>✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</li> </ul>
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> ・痰吸引指導研修を終えた看護師がいるので痰吸引研修を受ける職員を増やしている。 ・日中は看護職員が常勤しているが夜間不在となる。吸引資格を持っている介護職員に限られる為積極的には受け入れが出来ない。					
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている				○	<u>作成した方がよいと思います。</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</li> <li>✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</li> </ul>
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> ・マニュアル等の作成はしていない。					
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている		○			<u>そのまま続けてほしい。</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</li> <li>✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</li> </ul>
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> ・ターミナルケアの実績もあり。経管栄養・胃瘻・導尿カテーテル・点滴などの利用者も受け入れ支援行っている。					
<b>(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画</b>							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します</li> <li>✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます</li> <li>✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」</li> </ul>
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> ・地域密着型地域包括で暮らせる支援を行っていくことだと考えている。					
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している		○			そのまま続けてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます</li> <li>✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」</li> </ul>
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> ・1つの所に偏ることなくサービス提供ができています。					
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている		○			情報共有・連携が図れるように調整してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します</li> <li>✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます</li> <li>✓ そのような取組をしたことが無い場合は、「全くできていない」</li> </ul>
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> ・ひめさゆりネットワークは情報共有できる他職種が少なく利用していない。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている	2	3	4	3	そのまま続けてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します</li> <li>✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます</li> <li>✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</li> </ul>
		<p><b>[具体的な状況・取組内容]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族支援は個別に職員がチームで検討し介護方法を考え訪問時家族に方法を指導し一緒に実施している。</li> <li>・地域住民には運営推進会議を通じて必要であれば提起している。</li> </ul>					

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
<b>Ⅲ 結果評価</b>				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</li> <li>② 利用者の2/3くらいについて、達成されている</li> <li>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</li> <li>4. 利用者の1/3には満たない</li> </ol> <p><b>[具体的な状況・取組内容]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の尊厳を守りながら楽しく生活をした希望を本人家族と一緒に考え計画した。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「計画目標の達成」について、評価します</li> </ul>
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</li> <li>② 利用者の2/3くらいについて、達成されている</li> <li>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</li> <li>4. 利用者の1/3には満たない</li> </ol> <p><b>[具体的な状況・取組内容]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者家族より「利用してよかった」と安心されている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します</li> </ul>
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</li> <li>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</li> <li>③ 利用者の1/3くらいについて、達成されている</li> <li>4. 利用者の1/3には満たない</li> <li>5. 看取りの希望者はいない</li> </ol> <p><b>[具体的な状況・取組内容]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度2名様から看取りをさせていただきました「安らかに見送ることができ、良かった」との声を家族よりいただいた。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します</li> <li>✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます</li> <li>✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」</li> </ul>